

不況と戦争の時代（1931－1945）その１７

《空襲で、木製の多摩川大橋焼失！》

１９４４年（昭和１９）１１月から、首都圏は、断続的な空襲に見舞われています。東京大空襲は、１９４５年３月１０日、東京下町が爆撃され大惨事となったことを言います。次に大きな大惨事となったのが、同年４月１５日、多摩川下流域が襲われた城南京浜大空襲でした。（注）このとき、第二京浜国道の多摩川大橋が焼失します。その顛末は次の通り。

当時、京浜国道（第一京浜国道）の交通量増大に対応し、バイパスとして新京浜国道（第二京浜国道）が計画され、多摩川大橋が架橋されることになりました。１９４０年の東京オリンピックのマラソンコースになっていましたから、多摩川大橋は、１９３８年（昭和１３）に着工されます。

橋台や橋脚の下部工事は、１９４２年（昭和１７）に完成しますが、戦況悪化により上部工事を中断せざるを得なくなり、止む無く木製の橋桁を架けることになりました。そして、１９４５年（昭和２０）３月３１日に完成しますが、４月１５日の空襲により焼失。わずか１５日の寿命でした。

終戦後、工事が再開され、１９４９年（昭和２４）に完成。１９５２年（昭和２７）、新道路法に基づいて、日本橋から梅田新道までが一級国道１号として指定された際、東京から神奈川までの第二京浜国道が国道１号とされました。第一京浜国道は、国道１５号となりました。

なお、直下流には、１９８６年（昭和６１）に架けられた東京電力とＮＴＴの専用橋があります。

注：東京大空襲は、３月１０日、Ｂ２９爆撃機３２５機が、東京下町を中心に新しい焼夷弾を投下した空襲です。このときは、死者８万人以上、被災家屋は約２７万戸の犠牲が出ています。また城南京浜大空襲は、大田区、川崎市を中心に、Ｂ２９爆撃機２０２機が襲い掛かったもので、大田区は、ほぼ焼失し、川崎市は、市内中心地のほか、南武線沿いの軍需産業が徹底的に破壊されました。死傷者４００４人、家屋焼失約２２万戸。

写真は、①現在の多摩川大橋（アーチ橋は直下流の専用橋、HP「多摩川サイクリングロード橋めぐり」掲載写真）、②城南京浜大空襲（HP「太田たまがわ九条の会」掲載写真）、③空襲により焼失した東京都区域（東京新聞2015年5月26日掲載）、④空襲により焼失した川崎市区域（総務省HP資料）

①



②



③

